

経営比較分析表（令和6年度決算）

岡山県 備前市

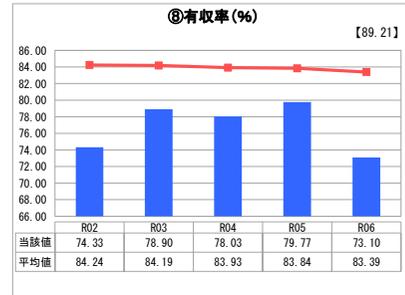
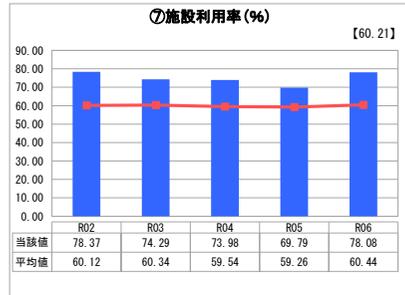
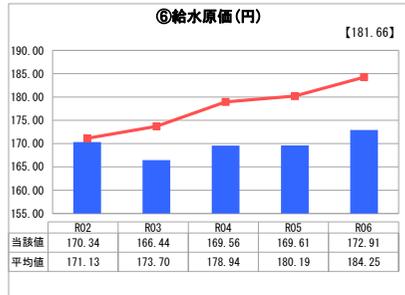
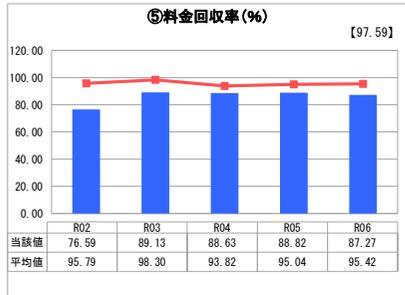
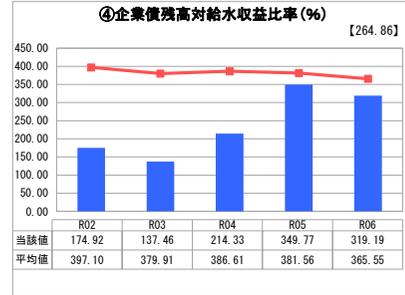
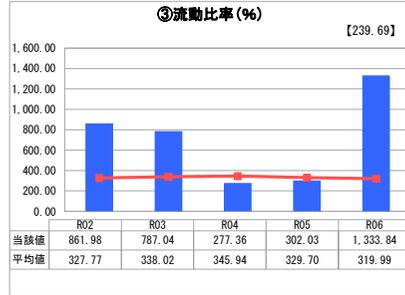
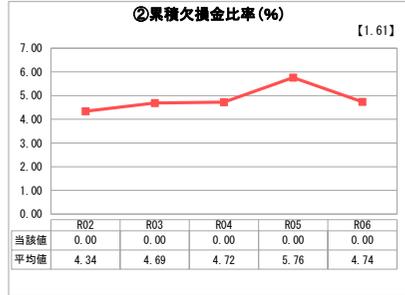
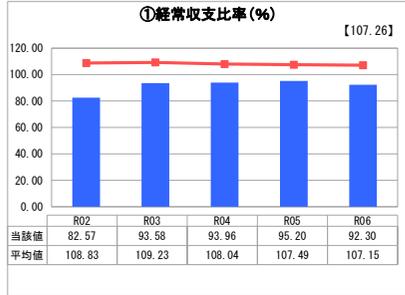
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	80.41	98.89	2,772	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
30,816	258.13	119.38
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
30,301	53.90	562.17

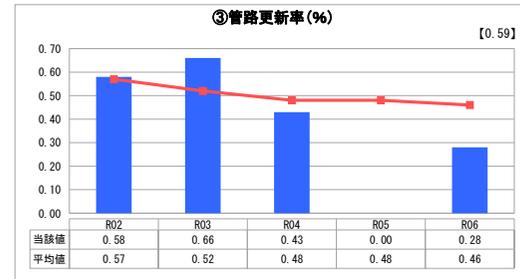
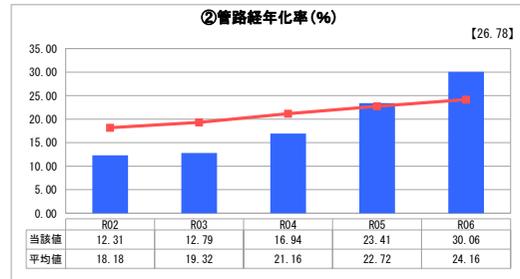
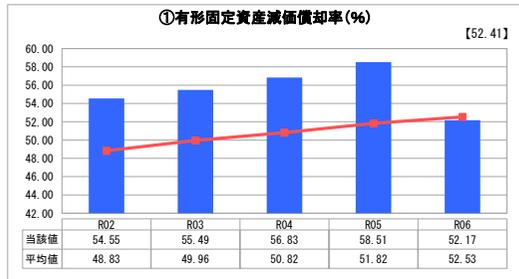
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

給水収益は微増となったものの、人件費や資産減耗費等の増加により、7年連続の赤字決算となり、厳しい状況が続いている。このため、①経常収支比率や⑤料金回収率は前年度に比べて低下しており、依然として類似団体平均値を下回っている。⑧有収率は6.7ポイント悪化しており、漏水調査や管路調査を実施し、老朽化した管路更新の推進により改善を図っていく。

③流動比率については、前年度に比べて工事請負費等の未払金が減少したため、大幅に上昇した。また、②④⑥⑦の指標についても、水準以上を保っている。

しかし、②累積欠損比率については、現時点で0%であり、欠損金もなく、資金面での課題もないため、経営についての問題はない。しかし、将来的には、人口減少や節水型機器の普及等により給水収益の減少が見込まれる一方、管路や施設の老朽化に伴う修繕費や、施設更新に伴う減価償却費の増加等が見込まれ、厳しい経営となると見込まれるため、より一層の効率的な事業運営を行っていく必要がある。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率について、坂根浄水場整備工事の完了に伴い固定資産が増加したため、償却率が大幅に低下した。

②管路経年化率については、類似団体に比べて高い水準にあり、直近5年間で急激に上昇している。

③管路更新率については、坂根浄水場整備工事を優先したため、更新率は低水準であった。水道施設については老朽化が進行しており、主に高度経済成長期に敷設した管路の老朽化が進んでいることから、漏水リスクの低減と安定給水の確保のため、今後は耐震化を含めて、長期的なビジョンを持って計画的に更新を実施していく必要がある。

全体総括

水道事業の経営は、給水収益の低迷、人件費の増加等により、7年連続の赤字決算となり厳しい状況が続いている。主たる財源である給水収益の減少が避けられない中、より効率的な事業運営を行う必要がある。

施設の老朽化も著しく、今後の更新には多額の費用を要するため、収支のバランスと効率性の観点から、施設の統合や規模の見直しなど、健全で効率的な事業経営に努める。